

2 研究の実際

エ 中学校自閉症・情緒障害特別支援学級（3年）の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する中学校3年生の生徒に対して、特別支援学級担任が、学校の教育活動全体を通して、対象生徒の情緒の安定を図るために合理的配慮を提供した事例である。

対象生徒は、国語、数学、英語、学活、帰りの会の時間を特別支援学級で過ごしている。交流学級では、友達と協力しながら、行事や係活動等に意欲的に取り組んでいる。しかし、進路や友人関係に不安を感じると、情緒が不安定になったり、体調を崩したりすることがある。落ち着いて学校生活を送ること、学習に集中して取り組むことを大切にしていけることが必要であると感じている。

そこで、対象生徒が落ち着いて学校生活を送り、希望する進路へ向けて学習に取り組むことができるように、支援体制や施設設備を整え、学習面や生活面での配慮をした。

P(調整・決定)シート

1 意思の表明

本人	<ul style="list-style-type: none"> 希望する高校へ進学できるように、勉強したい。 行事や係活動に一生懸命取り組みたい。 友達と楽しく過ごしたい。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 高校進学を目指して、勉強してほしい。 落ち着いて学校生活を送ってほしい。
引継ぎ等	<ul style="list-style-type: none"> 中学1年生のとき、専門機関による対象生徒についての理解啓発の場を、学年で設定した。 中学1年生のときから、対象生徒の特性を考慮しながら自立活動の時間に進路指導を行ってきた。 対象生徒は、不安を感じると体調を崩すことがある。そこで、不安を軽減するために、スケジュール等で活動の見通しを持たせたり、気持ちの落ち着かせ方を一緒に考えたりするようにしてきた。

2 調整

実態把握

学習面	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の学習内容に取り組んでいる。興味のある内容の理解は早いですが、苦手教科に対しては消極的になることがある。 どの教科でも課題をやり遂げようと努力をする。失敗したときは情緒が不安定になることが多い。 急いで文字を書くため、文字の形が崩れやすい。英単語のスペルミスや漢字の書き間違いも多い。 音楽を聴いたり、歌を歌ったりすることに高い関心がある。
-----	---

生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・急な変更や先の見通しが持てないときには不安を感じる。疲れやイライラから、感情のコントロールができないときもある。人のいないところや静かなところで休憩を取ることで落ち着くことができる。 ・気温や気圧の変化に対して、体調を崩すことが多い。 ・周囲の活動に合わせて、係活動や当番活動を行うことができる。
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級の中で、特定の友達と休み時間を過ごすことができる。相手の立場や気持ちよりも自分の気持ちや考えを強く発言することがある。 ・周囲に合わせて活動することができるが、その結果、精神的に疲れてしまうことがある。 ・係活動や役割に対して、友達と協力しながら取り組む。
その他 (生育歴・ 検査等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラム症の診断を受けている。 ・WISC-IVでは、平均の域にある。

検討

【時期】 前年度 3 月 保護者との面談

【参加者】 保護者、特別支援学級担任、交流学級担任

【内容】 高校進学を対象生徒、保護者共に希望している。そのために、情緒の安定と希望校合格のための学力向上を図るため、以下のような支援を検討した。

- ①対象生徒が落ち着いて生活できるように、特別支援学級の位置を、他学級から離すことで、落ち着いた環境を確保する。また、エアコン設置の教室を学級とし、体調面へも配慮する。
- ②特別支援学級で授業をする際に、教科担任と特別支援学級担任で指導方法や配慮事項について確認をする。
- ③進学に関する不安を軽減するため、入試までの流れや内容の説明を適宜行う。
- ④対象生徒用の週の予定表を発行し、その都度確認を行う。
- ⑤保護者を通じて、専門機関と連携を図り、対象生徒の特性に合わせた進路選択を行う。

【資料】 年間行事予定、4月の予定表・週の予定表

合意形成

【時期】 4 月 家庭訪問

【参加者】 保護者、特別支援学級担任、交流学級担任

【内容】 検討した①～⑤の支援内容を保護者に提案した。上記の合理的配慮を提供し、夏季休業中の三者面談で評価、見直しをする。

また、気になることや連絡事項については、週の予定表や連絡帳で密に連絡を行う。特別支援学級で情緒の安定を図り、落ち着いて学習や生活ができる環境を整える。

3 決定

長期目標

- ・希望する高校への進学を目指して、集中して学習に取り組む。
- ・学校行事や、高校入試に向けての活動などに見通しを持つことで、落ち着いた学校生活を送る。

<p>①教育内容・教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒用の週の予定表を発行し、その都度確認する。 ・交流学級での座席の位置を、人間関係等を配慮して決める。 ・行事等については内容を説明するとともに、事前に役割や活動内容等についても説明する。 ・学習内容に応じて、特別支援学級で個別の指導を行う。 	<p>②支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒の障害への理解と支援の在り方について、職員で共通理解を図る。 ・交流学級で授業を受ける際には、特別支援学級担任が教室内に居るようにし、指導や支援を行う。 ・学習内容やノートの取らせ方等についての打合せを教科担任と行う。 	<p>③施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かで落ち着いた空間になるように、特別支援学級の設置場所を決める。 ・エアコンのある教室を特別支援学級にする。 ・不安を感じたときに落ち着ける場所を確保する。
---	--	---

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

*** <合理的配慮：3観点11項目> * 該当する項目に○を付けて下さい。**

<p>①-1 教育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> () 学習上又は生活上の困難を改善・克服 () 学習内容の変更・調整 	<p>② 支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> () 専門性のある指導体制の整備 () 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解・啓発 () 災害時等の支援体制の整備
<p>①-2 教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> () 情報・コミュニケーション及び教材の配慮 () 学習機会や体験の確保 () 心理面・健康面の配慮 	<p>③ 施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none"> () 校内環境のバリアフリー化 () 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備 () 災害時等への対応に必要な施設・設備

次回の検討予定日（12月）

D(提供)-1シート

長期目標

- ・希望する高校への進学を目指して、集中して学習に取り組む。
- ・学校行事や、高校入試に向けての活動などに見通しを持つことで、落ち着いた学校生活を送る。

決定した合理的配慮

- ・対象生徒用の週の予定表を発行し、その都度確認する。
- ・交流学級での座席の位置を、人間関係等を配慮して決める。
- ・行事等については内容を説明するとともに、事前に役割や活動内容等についても説明する。
- ・学習内容に応じて、特別支援学級で個別の指導を行う。
- ・対象生徒の障害への理解と支援の在り方について、職員で共通理解を図る。
- ・交流学級で授業を受ける際には、特別支援学級担任が教室に居るようにし、指導や支援を行う。
- ・学習内容やノートの取らせ方等についての打合せを教科担任と行う。
- ・静かで落ち着いた空間になるように、特別支援学級の設置場所を決める。
- ・エアコンのある教室を、特別支援学級にする。
- ・不安を感じたときに落ち着ける場所を確保する。

実際の指導場面における合理的配慮の提供について

①教育内容・方法

場面	対象生徒の目標	手立て () は主な支援者
学習面	・学習内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の指示が一つの動作になるように、指示を簡潔にする。 (教科担任、特別支援学級担任) ・課題を一度に多く出さず、複数回に分けて出す。 (教科担任) ・文字の雑さやスペルミスを軽減するために、ワークシートを工夫する。 (教科担任)
生活面	・交流学級で安心して友達と過ごせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みの過ごし方について、対象生徒と確認する。 (特別支援学級担任) ・昼休みは、対象生徒が困ったときや不安な様子のあるときに、すぐに対応できるように交流学級で見守る。 (交流学級担任、特別支援学級担任)

行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って、活動に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の前に、写真等を使ってその行事の活動内容や役割等を確認する。 (特別支援学級担任) ・対象生徒が交流学級生徒とともに活動する係活動等は、内容を考慮して役割を決める。 (特別支援学級担任、交流学級担任)
-----	--	--

②支援体制

項目	時期	内容
TTによる支援体制	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や単元によって、特別支援学級担任が授業にT2として参加する。
職員会議	4月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒の情報について、校内職員全体で共通理解を図る。
職員会議	5月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問で確認した内容や配慮事項について、全職員での共通理解を図る。
学年部会	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに、事前の打合せを行い、対象生徒の様子や対応について共通理解を図る。

③施設設備

項目	時期	内容
落ち着ける場所の確保	4月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒の様子に合わせて、保健室や特別支援学級のいずれかを休憩場所として、用意する。 ・特別支援学級の場所を通常学級から離れたところに設置する。

D(提供)-2シート

合理的配慮の実際

1 合理的配慮の提供場面

学級活動「文化学習発表会を成功させよう」

2 本時の目標

○文化学習発表会の目的や内容を理解し、発表会当日までの活動の流れや役割に見通しを持つ。

3 合理的配慮を取り入れた本時の授業について

本学級（自閉症・情緒障害特別支援学級）には3年生男子2名が在籍している。それぞれの生徒の実態に合わせて、生活や行事のほとんどの時間を交流学級で過ごしている。これまでの係活動や当番活動では、学級や学年の一員として責任を持って活動している姿が見られた。文化学習発表会は、学校行事の中でも大きな行事の一つである。文化学習発表会に向けて、生徒全員が役割を分担し、お互いに協力しながら、舞台や展示を作り上げていく。同時に、合唱コンクールもあるため、クラスや学年での協力も大切になる行事でもある。

対象生徒は、普段は学級や学年の活動に意欲的で、協力的である。しかし、活動の見通しが持てないことへの不安を感じやすい。学校行事のために1日の学校生活の過ごし方が通常と変わる場合は、特に不安を感じやすく、他の生徒と一緒に活動することができなくなることがあった。また、行事に参加することができても、活動終了後に不満と疲れが強く印象に残っている様子も見られた。

そこで、交流学級における一斉指導ではなく、少人数で学習に取り組むことができるように、自閉症・情緒障害学級で、文化学習発表会の活動の流れや役割に見通しを持たせる場を設定する。まずは、週予定表で全体の流れを確認させ、写真で過去の活動を想起させてイメージを膨らませ、自分の役割の具体的な仕事内容を知ること、見通しを持たせることができるようにする。また、活動後に自分の頑張りを自覚できるように、活動の様子を写真や動画で振り返るようにする。

4 対象生徒へ提供する主な合理的配慮



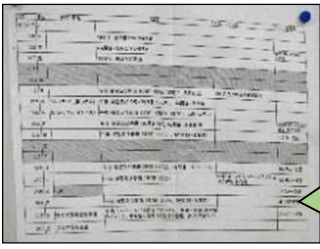
提供する合理的配慮	()は主な支援者
・昨年の文化学習発表会の様子を思い出しやすくするために、写真を提示する。(特別支援学級担任)	
・見通しが持てるように、文化学習発表会までの全体計画の表を黒板に掲示する。(特別支援学級担任)	
・学級用の週の授業予定表の中に、文化学習発表会の練習計画を挿入したものを渡す。(特別支援学級担任)	
・対象生徒が不安を感じたときに、落ち着ける場所を確保する。(特別支援学級担任)	


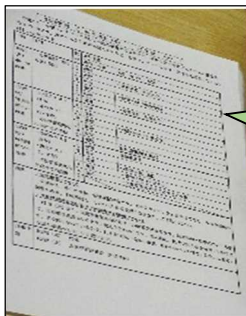
5 授業の実際

(◎合理的配慮)

担任の所感

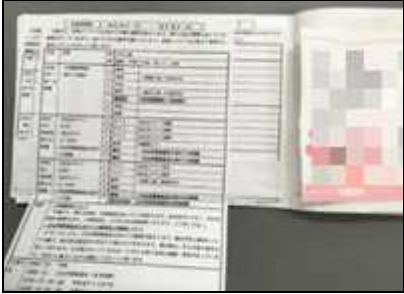
対象生徒



学習活動	教師の働き掛け	取組の様子
<p>【授業前】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月行事予定表を掲示して、今月の予定を確認させた。 ・文化学習発表会での一人一役の役割やその仕事内容、担当の先生を確認させた。 <p>◎疲れたときは休憩できるように特別支援学級に畳コーナーを設置した。</p> 	<p>対象生徒の役割や担当の先生の所に印をつけ、分かりやすくしました。</p>
<p>1 学習の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習内容を黒板に書き、確認させた。 	
<p>めあて 文化学習発表会までの活動の流れと自分の役割を確認しよう。</p>		
<p>2 2年生の時の文化学習発表会を振り返る。</p>	<p>◎昨年度の文化学習発表会の写真を二人で一緒に見ることができようように提示した。</p> <p>◎写真を時系列に見せながら、昨年度の様子について発言させ、文化学習発表会までの活動の流れを思い出させた。</p> 	<p>言葉だけでなく、昨年の写真を見たので、思い出しやすかったです。</p> <p>思い出しました！去年僕は、〇〇の係をしました。</p>
<p>3 今年度の文化学習発表会について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の文化学習発表会の日程を確認させた。昨年度とプログラムが変わったところに注意を向けさせた。 ・一人一役の自分の役割や活動内容の確認と、合唱コンクールの学級や学年の歌を確認させた。 	<p>準備の日数を確認し、当日までの流れと先の見通しを持たせました。情報が多かったため、不要な部分を白い紙で隠しながら見せたことで見やすくなりました。</p>


	<p>◎発表会当日までの 予定表を、ホワイトボード（黒板）に提示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定表を見ながら、合唱コンクールや3年生の舞台発表の練習予定や、準備等を確認させた。 ・対象生徒が交流学級の活動に参加する時間を、自分で確認させた。 	
<p>4 自分の役割について知る。</p>	<p>◎昨年度の活動の様子を写した写真を見せながら、いつ、どこで、どのような仕事をするのか、確認させた。</p>	 <p>ああ、駐車場係はこんなふうに線を引く仕事をするのですね。写真を見たら、分かりました！</p>
<p>5 来週の予定表を見て、見通しを持つ。</p>	<p>◎予定表に、文化学習発表会と合唱コンクールの練習時間と活動場所を記入したものを提示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定表に、対象生徒自身の活動のめあてや心配なこと等を記入させた。 	 <p>合唱コンクールの練習時間や場所が毎日変わるので、対象生徒は予定表で1日1日確認していました。</p> <p>合唱コンクールの歌詞を覚えられるかなあ。</p>
<p>6 今日の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予定表に書いた活動のめあてと心配なことを発表させた。 ・授業の参加の様子やめあての内容について、称賛した。心配なことについては、一緒に考えることを伝えた。 	<p>練習や自分の役割に責任を持って取り組んで、中学校生活最後の思い出になるようにしたい。</p>


D(提供)-3シート

合理的配慮の具体例

場 面	生活面	対象生徒の学校での1週間の過ごし方
合理的配慮の内容		
<ul style="list-style-type: none"> 学校での1週間の過ごし方が分かる時間割表を作成する。 		
		<p>学校での1週間の過ごし方に見通しを持つことができるように、対象生徒の実態に応じた時間割表を作成した。</p> <p>1週間の活動内容に見通しを持つことが難しかったため、1週間を前半と後半に分けた時間割表を作成し、丁寧に連絡や確認をした。時間割には、次週の行事予定、時間割、持ってくるものや連絡事項等を記載している。対象生徒が自分で持っていて確認するために利用する分と、共通理解のため連絡帳に貼り付けて保護者に渡す分とを準備し、渡すようにした。</p> <p>対象生徒は、自分で時間割表を確認することで活動の見通しを持つことができ、落ち着いて学校生活を送ることができるようになってきた。</p>
【連絡帳に貼り付けた時間割表】		

場 面	生活面	落ち着いて過ごせる場所の確保
合理的配慮の内容		
<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級内に落ち着ける場を設置した。 特別支援学級以外の安定場所として、保健室を利用できるようにした。 		
		<p>対象生徒は、活動の見通しが持てず、進路や友人関係に不安を感じると、情緒が不安定になったり、体調を崩したりすることがある。</p> <p>そこで、特別支援学級内に畳コーナーを設置し、疲れたときや情緒が不安定になったときには、寝転んだりうずくまったりしながら、休憩を取れるようにした。また、特別支援学級だけでなく、保健室も休憩場所として活用できることを本人及び保護者と共通理解した。</p> <p>授業の合間の数分でも休憩できることで、情緒の安定につながった。また、落ち着ける場所が増えたため、安心して学習することができている。</p>
		
【特別支援学級室内の畳コーナー】		
【保健室内の様子】		

場 面	行事等	修学旅行への参加の仕方
合理的配慮の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 修学旅行中の集合場所や活動内容を確認できる対象生徒用の予定表を作成する。 ・ 修学旅行に安心して参加できるように、見学場所での過ごし方について対象生徒と検討する。 		
 <p data-bbox="225 824 635 902">【対象生徒の別行動予定を記入した修学旅行予定表】</p>	<p>対象生徒は修学旅行の行程で、不安を感じる見学場所があった。そのため、保護者や外部機関と連携を図り、対象生徒が不安を感じる見学場所での過ごし方について、対象生徒と一緒に話し合った。そして、見学場所によっては、別行動をすることに決めた。</p> <p>修学旅行中は自分の予定表で確認しながら、安心して過ごすことができていた。また、参加できない見学場所では、他の生徒が見学に行っている間、特別支援学級担任と一緒に休憩ができる場所でゆっくりとした時間を過ごした。</p>	

場 面	行事等	体育大会への参加の仕方
合理的配慮の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の写真や今年度のプログラムを見せ、活動の見通しを持たせる。 ・ 体育大会当日の活動内容と場所、役割を対象生徒と確認する。 		
 <p data-bbox="220 1570 659 1648">【体育大会当日、他の生徒と一緒に係の仕事をしている対象生徒】</p>	<p>対象生徒は、見通しが持てないと体調を崩すことが多い。体育大会本番までの練習や準備で、心身共に疲れたり、うまくできなかつたりすることへの不安から、登校できなくなったことがあった。</p> <p>そこで、体育大会当日までの見通しが持てるように、写真と今年度のプログラムを提示し、昨年度との変更点、当日の対象生徒の役割や出場順番等の活躍の場を、特別支援学級担任と確認した。</p> <p>対象生徒は自分の役割の意義や活動の目的を理解し、参加することが学級のためになる、という気持ちを持って体育大会に参加できた。自分の活躍の場や、自分にしかできない場面があることが分かり、意欲的に活動することができた。</p>	

支援体制	理解啓発	同学年生徒への理解啓発
合理的配慮の内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門機関と連携を図りながら、同学年生徒への対象生徒の理解啓発を図る。 		
<p>友達とのトラブルを軽減し、対象生徒が落ち着いた気持ちで生活ができるように、同学年生徒への対象生徒の理解啓発を図った。</p> <p>まず、道徳の時間に、自分や他者との違い、命や心を大切にすること、思いやりのある言葉の使い方等をテーマにした人権学習に取り組んだ。その後、専門機関による発達障害に関する講話を、学年集会で行った。講話の後は、対象生徒が、自分の苦手なことや今の思い、困っていることやみんなへの願いを話す場を設けた。また、学年集会の後にも各学級で人間関係や人権について考えを深める時間を設けた。</p> <p>学習後は、これまで見られたようなトラブルが減り、対象生徒が交流学級で友達と落ち着いておしゃべりをしている姿が多く見られるようになった。</p>		

C(見直し)シート

見直し

検 討

【時 期】11月

【参加者】交流学級担任、特別支援学級担任、教科担任

【内 容】 提供した合理的配慮の成果と課題について、対象生徒の活動の様子を振り返ったり、希望する進路を踏まえながら話し合ったりした。

成果と課題

- 行事の確認や授業時間予定表の提示を週2回に分けて行ったことで、対象生徒は見通しを持ちやすくなり、落ち着いた学校生活を送ることができた。また、行事前に活動内容等の確認を特別支援学級でしたことで、活動への参加もスムーズにできた。
- 対象生徒の交流学級での座席を人間関係に配慮して決めたため、対象生徒は安心して交流学級で過ごすことができた。
- 障害への理解と支援の在り方について、全職員で共通理解を図った。その結果、対象生徒の様子や表情の変化に気付いて声を掛ける職員が増えた。
- 落ち着く場所を確保したことを伝えていたため、対象生徒は安心して学校生活を送ることができた。
- 中学校卒業後の進路について、対象生徒と保護者と検討した結果、希望する高校を変更した。そのため、学習への取り組み方や卒業後の学校生活等について、改めて考える必要がある。

合理的配慮の変更点

これまでの合理的配慮は今後も継続する。以下の点において、見直しをした。

- ・関係機関と連携を取り、学習への取り組み方や卒業後の生活について考える機会を設ける。

合意形成

【時 期】12月

【参加者】対象生徒、保護者、特別支援学級担任

【内 容】 検討した成果と課題や、変更した合理的配慮について提案した。
年度末に、進路先の高校との引継ぎを行う予定である。

**A(引継ぎ)シート****引継ぎ**

【時 期】 3月

【参加者】 特別支援学級担任、進学先の学校の担当者

【方 法】 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、提供してきた下記の合理的配慮の内容について伝える移行支援会議を開き、話し合いをする。

【内 容】 今年度実施してきた以下の合理的配慮を引継ぎ内容とした。

- ・対象生徒用の週の予定表を発行し、その都度確認する。
- ・交流学級での座席の位置を、人間関係等を配慮して決める。
- ・行事等については内容を説明するとともに、事前に役割や活動内容等についても説明する。
- ・学習内容に応じて、特別支援学級で個別の指導を行う。
- ・対象生徒の障害への理解と支援の在り方について、職員で共通理解を図る。
- ・交流学級で授業を受ける際には、特別支援学級担任が教室に居るようにし、指導や支援を行う。
- ・学習内容やノートの取らせ方等についての打合せを教科担任と行う。
- ・静かで落ち着いた空間になるように、特別支援学級の設置場所を決める。
- ・エアコンのある教室を、特別支援学級にする。
- ・不安を感じたときに落ち着ける場所を確保する。
- ・関係機関と連携を取り、卒業後の学習や生活について考える機会を設ける。

成果と課題

成 果

○保護者との面談や外部機関との連携を基にした合理的配慮の決定

面談や連絡帳を通して、保護者と連絡を取りながら、対象生徒の様子や支援方法等について共通理解を図ったり、合理的配慮を検討したりした。また、保護者を通して外部機関と連携を図り、専門的な立場からの意見を取り入れながら、合理的配慮を決定することができた。決定した合理的配慮を交流学級担任や教科担当と共有することで、対象生徒の様子や状況に応じた支援の提供ができた。その結果、対象生徒の不安を軽減することができ、落ち着いた学校生活へとつながった。

○対象生徒が意欲的に行事等へ参加、活動できるための合理的配慮の提供

スケジュールを基に、週や月ごとの予定、毎日の時間割や行事、行事の際の練習や準備について確認を随時行った。交流学級で確認するだけでなく、特別支援学級で担任と一緒に確認することで、見通しを持つことができるようにした。その結果、対象生徒の不安や戸惑いを軽減することができ、各行事に意欲的に参加する姿が多く見られるようになった。

課 題

○対象生徒は3年生であるため、今後は新しい学校へと進学し、新しい環境で学習をすることになる。そのため、進学先での学習や生活面などにおける合理的配慮について検討する必要があると考える。対象生徒が見通しを持ち落ち着いた生活を送ることができるように、進学先との引継ぎを適切に行いたい。

平成 29 年度 個別の教育支援計画

記入者名：〇〇 〇〇 記入日：平成 29 年 4 月 〇日

〇〇 中学校 3年 〇組		校長名	〇〇 〇〇	担任名	〇〇 〇〇
ふりがな 氏名 〇〇 〇〇 (男・女)			生年月日：平成 〇年 〇月 〇日		
保護者名 〇〇 〇〇		家族構成	〇 〇 〇 〇		
住所：〒 〇〇市 〇〇町 〇〇〇		TEL (— —)			
緊急連絡先 (— —)					
現在の生活、将来の生活についての願い					
本人の 願い	<ul style="list-style-type: none"> 希望する高校へ進学できるように、勉強したい。 行事や係活動に一生懸命取り組みたい。 友達と楽しく過ごしたい。 		保護者の 願い	<ul style="list-style-type: none"> 高校進学を目指して、勉強してほしい。 落ち着いて楽しく学校生活を送ってほしい。 	
本人の状況 (学習面、集団参加・社会性、対人関係・コミュニケーション、他)					
学校	<ul style="list-style-type: none"> 1日の多くの時間を交流学級で過ごしている。国語・数学・英語の学習は特別支援学級で学習している。 行事や係活動では、集団の活動に合わせて行動することができる。 予定の確認ができないときは不安を感じ、イライラする様子が見られる。1年生のときに比べて、感情のコントロールができるようになった。 友達に対して協力的であるが、相手の立場や気持ちよりも、自分の気持ちや考えを強く発言することがある。不安定になったときは、特別支援学級や保健室で過ごし落ち着くことができる。 学習や係活動に対して真面目に取り組む。 				
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家族にその日の出来事などをよく話している。 休日には、サイクリングやゲーム、釣りをし、自分のペースでゆっくりと過ごすことが多い。 				
地域・関係機関	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回、病院を受診し、投薬とカウンセリングを受けている。 相談機関での継続した面談を受けている。 				
支援の目標	<ul style="list-style-type: none"> 希望高校への進学を目指し、基礎的な学力を身に付けさせる。 学校行事や高校入試に向けての活動に、落ち着いて参加することができるような手立てを行う。 				
主な支援内容				支援者	
学 校	学級	<ul style="list-style-type: none"> 1週間の予定や行事の内容を、事前に伝える。 対人関係等で困ったときは、解決方法を一緒に考える。 			交流学級担任 特別支援学級担任
	校内	<ul style="list-style-type: none"> 不安を感じたときに、<u>落ち着ける場所を確保する。</u> 			養護教諭 特別支援学級担任
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持って生活できるようにする。 基本的な生活習慣を身に付けさせる。 			家族	
地域					
関係機関 医療、福祉、各特別 支援学校等	<ul style="list-style-type: none"> 病院：定期健診相談と定期的なカウンセリング、投薬。 療育機関：ソーシャルスキルを身に付けさせるために、療育や訓練をする。 			〇〇病院医師 専門家	
評価 及び 引継ぎ事項					

【合理的配慮シート】

〇〇 中学校 3年 〇組 氏名 〇〇 〇〇

長期目標
<ul style="list-style-type: none"> 希望する高校への進学を目指して、集中して学習に取り組む。 学校行事や、高校入試に向けての活動などに見通しを持つことで、落ち着いた学校生活を送る。

提供する合理的配慮	評価
・対象生徒用の週の予定表を発行し、その都度確認する。	継続
・交流学級での座席の位置を、人間関係等を配慮して決める。	継続
・行事等については内容を説明するとともに、事前に役割や活動内容等についても説明する。	継続
・学習内容に応じて、特別支援学級で個別の指導を行う。	継続
・対象生徒の障害への理解と支援の在り方について、職員で共通理解を図る。	継続
・交流学級で授業を受ける際には、特別支援学級担任が教室に居るようにし、指導や支援を行う。	継続
・学習内容やノートの取らせ方等についての打合せを教科担任と行う。	継続
・静かで落ち着いた空間になるように、特別支援学級担任が参加し、支援を行う。	継続
・エアコンのある教室を、特別支援学級にする。	継続
・不安を感じたときに落ち着ける場所を確保する。	継続
・関係機関と連携を取り、卒業後の学習や生活について考える機会を設ける。	追加

【提供する合理的配慮を決定した日】

H29 年 4 月 〇日 児童生徒名 〇〇 〇〇 保護者名 〇〇 〇〇

担任名 〇〇 〇〇 学校長名 〇〇 〇〇

次回検討予定日 H29 年 12 月 〇日